

第4学年 体育科の実践

1 単元名 「ソフトバレーボール」 (全8時間 本時5時間目)

2 単元目標

- ネット型ゲームの行い方を理解するとともに、チームによる攻撃と守備による易しいゲームができるようにする。
- ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- ルールを守り、場や用具の安全に気を付けてネット型ゲームに取り組み、勝敗を受け入れたり、仲間と協力したりすることができるようにする。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ・・・「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

【聴く】

相手の話を聞き、「なるほど」「そうか」「だからそう考えたんだ」という友だちの考えに自然に反応する姿も見られてきた。しかし、相手を意識して最後まで話を聞いたり、話の内容を理解し聞いたりすることがまだまだである。話の内容理解が難しい児童には、一文を短くしてナンバリングして話すことや、細かく手順を示して説明するなどの手立てをとっている。また、相手の話を聴くことは「相手への思いやり」であることを意識付けし、全員で話を聴く雰囲気づくりをしている。

【話す】

話をすぐ理解し、根拠をもって説明できる児童もいるが、声が小さくなったり、発表が決まった児童になってしまったりする場面がある。また、授業中の発表の場面では、自分の考えに自信がもてず発言できななかったり、自分の考えをうまく言葉に表せなかったりする課題がある。そこで、既習事項で簡単な問題を提示することから全員が発言できるようにすることや、ペアやグループでの少人数での話し合いの場を設けている。少数から自分の考えを伝えさせ、自信をもって全体の場での話し合いに参加できるように、段階的な学習活動を意識している。また、理由を伝えながら自分の考えを相手に分かりやすく伝えられるように指導しているところである。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

ベースボール型ゲームの学習では「ティーボール」に取り組み、チームでの関わり合いを経験している。チームでの学び合いでは、どうすればうまく攻められるか、またしっかり守られるかという視点で話し合った。

「どういう打順にするか」「誰がどこを守り、どうやって守るか」を考えさせた。ゲームの後には、作戦でうまくいったことやうまくいかなかったことを紹介し、何が足りなかったのかを全体で学び合った。また、チームでアドバイスをしたり、賞賛の声かけをしたり、技術の向上だけでなく、仲間と関わり合い、支え合いながら進める学習を経験している。

学習の様々な場面で、「自分でやってみたい。」「こうしたらいいんじゃない?」という意欲や発想豊かな考えが見られる。グループでの話し合いでは、活発に意見を出すことができていた。

しかし、一部の児童だけで話し合いが進み、人まかせになってしまう様子も見られる。そこで、全員が話し合いに参加し、自分事として課題を解決できるようにしていきたい。また、「できることからやってみるという前向きな気持ち」と「みんなで考えを出し合える雰囲気づくり」を大切に進めていきたい。その上で、仲間との話し合いを通して、ひびき合える姿を目指したい。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領の「第3学年及び第4学年の内容」（Eゲーム）の内容を受け、設定したものである。中学年のゲームは、「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」で構成され、主として、規則を工夫したり作戦を選んだり、集団隊集団で友だちと力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。ネット型ゲームでは、「基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをする。」と、学習指導要領に示されている。ボールを持たないときの動きも必要となり、全員がプレイに関われる。そこで、ゲームのルールを工夫したり、ゲームに必要な技能を身に付けられるようにしたりすることも重要となる。

また、ネット型ソフトバレーボールは、バレーボールを基にしたゲームで、相手から自分たちの動きを妨げられず、一人ひとりがもっている力を発揮して攻めと守りを交互に繰り返すことができる教材である。チームの仲間と協力してボールをつなぎ、相手のコートに返すことができる。チームで攻め方や守り方を考えて学習を進められることに本単元のよさがある。

〈指導について〉

本単元のネット型ゲームの特徴は、ネットを挟んで敵と味方に分かれ、相手コートにボールを返して得点を重ねていくところにある。しかし、バレーボールはテレビで見ると知っている児童は多いが、ネット型ゲーム行うのは初めての児童がほとんどである。

導入では、「ソフトバレーボールは、どうやってやるのかな？」という問いから、まずはソフトバレーボールのイメージをもたせる。ボールに慣れる練習から始め、段階的に学習を進めていく。

次に、ボールを返す方法やルールをもっと知りたいという思いが出てくると予想し、「どうやって相手にボールを返したり、守ったりしたらいいかな？」のねらい1 自分のチームを知り、易しいルールや場を考慮して、ラリーを楽しむことにつなげていく。

ねらい1の活動の中で、ラリーがうまく続かないなどの課題が出てくると考えられる。「ラリーを続けるためには、どうしたらいいかな？」という次の問いにつなげていく。そこで、「チームの課題は何か？」など、自分たちのチームの特徴にも気づき、「作戦を立てたい」「ルールを工夫したい」という思いが生まれると予想される。

そこで、本時で児童が解決したい問題は、「自分たちのチームは、どんな作戦を立てたらいいかな？」であり、ねらい2 自分たちのチームに合った攻め方や守り方を工夫してゲームを楽しむことである。

本時の問題を解決させるために次の手立てをとっていく。

① 教具の活用や視覚的な掲示物の提示

- ・各ポジションの位置や役割について考えるために、作戦ボードを準備する。（作戦内容のイメージを共有）
- ・練習方法を選択できるような視覚的に確認できる掲示物を用意

② ふり返りの場の設定

- ・ICTを活用し、自分たちの動きをふり返る ・ペア班でアドバイスし合う

③ ルールの工夫と話し合う場の設定

- ・サーブ（投げ入れ・アンダー・サイド・オーバー）・キャッチ（2回まで）・ボールタッチの回数（5回まで）

④ 学習展開での教師の出どころと焦点化

チームで作戦を立てる場面では、課題解決がうまくいかず、関わり合いがあまりできていない場合、教師の出どころとして声をかけ助言する。

- ・チームの課題だけでなく、チームのよさは何かも考えさせる。
- ・具体的な作戦方法を助言する。（例）前2人後ろ2人にする、トスをあげる人を決める、ローテーションを変える、キャッチのタイミングなど
- ・関わり合う言葉を促し、個人カードに提示しておく。

（例）「〇〇さんが言いたいことは、こういうこと？」「〇〇さんはどう思うの？」「くわしく教えて。」

「もう一回言って。」「つけたして言うと」「〇〇さんは〜と考えたのかな。」

全体でふり返る場面では、チームの作戦で上手くいったことを発表したり、ルールを全体で話し合ったりする。その話し合いを焦点化し、ルールの追加・修正を全体共有することで次時の学習へ生かせるようにしていく。

本時では、仲間との話し合い（作戦）を通して、チームの課題を解決したり、よさを生かしたりする姿をひびき合いの姿とし、ブロックテーマ「仲間と支え合う自分」を高めていきたい。

5 単元構想

単元構想 4 学年体育科

単元目標

- ネット型ゲームの行い方を理解するとともに、チームによる攻撃と守備による易しいゲームができるようにする。
- ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- ルールを守り、場や用具の安全に気を付けてネット型ゲームに取り組み、勝敗を受け入れたり、仲間と協力したりすることができるようにする。

3 学年体育科

ベースボール型ハンドベースボール
ゴール型ポートボール
ゴール型タグラグビー
4 学年体育科
ゴール型タグラグビー
ベースボール型ティールボール
ゴール型サッカー

- ・うまくいかない。(点数が入らない・ルールでもめてしまう)
- ・打順を変えてみよう。
- ・どうしたらみんなできうまく守れるかな？
- ・作戦を図でかいてみよう。

学級活動「クラス前期お楽しみ会（風船バレー）」

- ・みんなで風船バレーやってみよう
- ・もっと風船を落とさないようにしたい
- ・みんなであつなげて相手のチームに打ち返したい
- ・ボールでやってみよう ・初めてだからやわらかいボール（ソフトバレーボール）がいいな

「ソフトバレーボールは、どうやってやるのかな？」①

- ボールに慣れよう
- ・1人で真上に上げて何回続くかな ・2人や3人でもやってみよう ・キャッチしてもいいかな ・円になってやってみよう
- ソフトバレーボールのイメージをもち、学習の進め方を知ろう
- ・他にどうやってボールを返す方法があるかな ・どんな用具が必要かな ・場所（ライン）やルールを決めたいな

- ◇用具や場所
- ・ネット（個の支援→スズランテープで色や高さを工夫）
 - ・コートライン（個の支援→色の配慮）
 - ・ボール・得点板
 - ・ホワイトボード（作戦用）

「どうやって相手にボールを返したり、守ったりしたらいいかな？」②

ねらい1 自分のチームを知り、易しいルールや場を考えて、ラリーを楽しもう

- ・いろいろな高さのボールを片手、両手ではじいたり、打ちつけたりしてみよう（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、アタック、アンダーハンドサーブ）
- ・相手コートから返球されたボールの片手、両手での返してみよう ・ボールの落下点や操作しやすい位置への移動
- ・ラリーをしてみよう（円陣ラリー、ネット使ったラリー） ・ラリーがうまく続かないな

「ラリーを続けるためには、どうしたらいいかな？」③

帰りの会

「今日の Rainbow（いいところ見つけ）」
○○さんが一生懸命、応援してがんばっていた

- 練習の方法やルールを工夫し、課題解決を図る。
- ・練習を工夫しよう。（円陣、1対1、ボールの下に入る練習）
- ・ラリーが続いてきたけど、ネットを越すまで続かないね
- ・アンダーハンドパスがうまくいかないから、キャッチのルールを増やしたいな
- ・ルールを工夫しよう（続けて2回触ってよいにする？ ・キャッチは何回まで？ ・何回でコートに返す？
- ・ワンバウンドありにする？ ・サーブは両手で相手のコートに入れてもいいことにする？
- ・チームの課題は何か？ ・作戦を立てて考えよう

- 〇ルールを守り、場や用具の安全に気を付けてネット型ゲームに取り組み、勝敗を受け入れたり、仲間と協力したりすることができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度） 観察・発言

「自分たちのチームは、どんな作戦を立てたらいいかな？」④⑤（本時）⑥⑦⑧

ねらい2 自分たちのチームに合った攻め方や守り方を工夫してゲームを楽しもう

道徳科

「今日の MVP」（正直、誠実）・自分がアウトになったら正直に言おう。

「ONE TEAM—ラグビー日本代表」（友情、信頼）・認め合ったり、話し合ったりすることがチームを一つにするんだ。

- 自分たちのチームに合った作戦や役割を工夫してゲームをするにはどうしたらいいかな？
- ・人に見てもらおうと自分たちでは気づかないことも教えてもらえるんじゃない？
- ペアチームにアドバイスをもらおう。（ICTの活用）
- ・チームワークを高めてがんばろう。 ・チームの強みを生かさそう。
- ・みんなで協力して動きを工夫すると楽しくソフトバレーボールができたよ
- ・チームによってそれぞれの課題が違っているから自分たちで練習を考えるといいね。
- チームの課題や強みを生かすにはどうしたらいいかな？
- ・自分たちのチームはトスがうまくできるから、3回目をアタックして返すことを練習したよ。
- ポジションにおける役割分担を工夫するどんな役割を決めておけばいいかな？（守り方や攻め方の工夫）
- ・前2人後2人を変えてトスをあげる人決める？ ・触る順番を工夫する？
- ・ローテーションは？ ・キャッチのタイミングを工夫する？

- 〇ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。（思考・判断・表現）学習カード・発言

- 〇ネット型ゲームの行い方を理解するとともに、チームによる攻撃と守備による易しいゲームができるようにする。（知識・技能）学習カード・観察

【ひびき合う児童の姿】「仲間との話し合い（作戦）を通して、チームの課題を解決したり、よさを生かしたりする姿」

5 学年体育（ネット型ソフトバレーボール）

- ・ネット型では、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすること（プレイヤーの人数・コートの広さ・ネットの高さ・触球方法など）
- ・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること

中学校第1・2 学年体育

- ・積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ること
- ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること
- ・勝敗を羨う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きで、ゲームを展開すること

6 本時について

本時目標 ボール操作の技能を高め、チームに合った練習方法や作戦を考えてゲームをすることができる。

学習活動 ・ 予想される児童の反応	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>1 協力して用具やコートの準備・準備運動をする。＜5分＞</p> <p>2 チームごとにめあてを確認し、練習をする。(円陣ラリー、ペアなど)＜5分＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールを落とさないように上にあげるぞ ・ ラリーが続くといいな ・ 高いボールはオーバーハンドパスでとろう ・ ボールの動きに合わせて、ボールの下に入るといいね <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分たちのチームは、どんな作戦を立てたらいいかな？</p> <p>【ねらい2 自分たちのチームに合った攻め方や守り方を工夫してゲームを楽しもう】</p> <p>3 ゲーム(前半戦)をする。＜6分＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手がいないところをねらってアタックしてみよう ・ 低いボールが取れないな ・ ラリーが続かないな <p>4 アドバイス・作戦タイム・チーム練習をする。＜10分＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰がとるか迷ったボールは声をかけて、ラリーが続くようにしよう ・ ○○さんに打ちやすいボールをトスしよう ・ 前2人後ろ2人を変えてトスをあげる人を決めようか ・ ローテーションを変えた方がいいかも ・ キャッチのタイミングを変えよう <p>5 ゲーム(後半戦)をする。＜6分＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラリーが続くようになってきた ・ みんなで声をかけ合ってカバーしよう ・ 作戦がうまくいかないな <p>6 学習のふり返りをする。＜8分＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを個人で記入し、チームの課題やよかったことを話し合う。 ・ チームの作戦でよかったことを発表する。 ・ ルールなど課題を全体で話し合い、追加・修正し共有する。 <p>7 あいさつ、片付け＜5分＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に用具の準備ができるように配慮する。 ・ 前時まで行ったレシーブ、トスの動きをふり返ったり、練習方法を選択したりできるように視覚的に確認できる掲示物を準備しておく。 ・ 前時で追加、修正したルールを確認する。 ・ 各ポジションの位置や役割について考えるために、作戦ボードを準備する。(作戦内容のイメージを共有) ・ ペアチームでアドバイスすることを促す。 ◆チームに合った練習方法や作戦を考えることができる。【思考・判断・表現】 ・ 課題解決がうまくいかず、関わり合いがあまりできていないチームには、声をかけ助言する。(出どころ) ◆ゲームの中で、ボールの動きに合わせて体を動かすことができる。【知識・技能】 ・ ふり返りの観点として「ルール」「作戦(課題・よかった点)」を提示する。 ・ チームで話し合ったことを取り上げ、全体で共有し、次時へ生かせるようにする。(ルールなど話し合い→焦点化) ・ よかった点を称賛し、次時への意欲を高める。

7 実践を終えて

<単元を通して>

導入では、ソフトバレーボールが初めての児童が多いので、ボールに慣れる練習から始めた。段階的に学習を進めていくことで、普段ボール運動が苦手と感じる児童も楽しそうに取り組んでいた。

次に、「ボールを返す方法」や「ルールをもっと知りたい」という思いが生まれ、ねらい1の易しいルールや場をみんなで考え進めることができた。ねらい1の活動の中で、ラリーがうまく続かないなどの課題が予想通り出た。「ラリーを続けるためには、どうしたらいいかな？」という問いから「作戦を立てたい」「ルールを工夫したい」という思いにつながった。

クラスでルールを工夫する場面では、「ラリーが続かないからキャッチや返球の回数を増やしたい」など、積極的にルールを考え、意見を伝え合う姿がよく見られた。ただ、キャッチを行う際、長くボールを持ってしまいラリーが続かなかったので、キャッチバレーボールの動画を活用してイメージを共有した。その後、ボールを落とさないようにラリーを続けようとする意識を高めることにもつながった。

単元の終わりには、キャッチなしでローテーションを取り入れてゲームを進めることができてきた。また、メンバーを替えてゲームを行うことで、いろいろな仲間と関わり合い、これまでの学習を生かし、チームでカバーしながらゲームを楽しむことができてきた。

<本時の成果と課題>

○同じチームと2回試合を行うことで、チームで作戦を立てやすかったようだ。

△ねらい2で攻め方や守り方を工夫できるように、方法をもっと提示できるとよかった。

△チームで作戦を立てる際、課題解決がうまくいかず、関わり合いがあまりできていない場面があった。教師の出どころとして練習を生かした具体的な作戦方法を助言することができるようになった。

△チームで集まり作戦を立てることに慣れてきている様子だったが、個人カード、チームカード、作戦ボードなど書くものが多かったのもう少し絞れるとよかった。

△ルールの話し合いの場面では、ラリーが続かないため「キャッチの回数を増やしたい」という意見と、点数が入りやすいように「キャッチはなしにした方がよい」という意見に分かれた。チームの技能に差が出てきたこともあるが、子どもたちの考えをしっかりと把握し、教師がねらいに沿って焦点化させる必要があった。

○仲間との話し合い（作戦）を通して、チームの課題を解決したり、仲間のよさを見つけたりし、ひびき合いの姿が見られた。また、ボールを落としても仲間を励ましたり、上手くできたことを褒め合ったり姿も見られ、学習を通してブロックテーマ「仲間と支え合う自分」が高まったと思う。

